

巻頭言

「高校数学教育の役割」

数学部会長 藤崎 俊浩

令和5年度6月に実施されました数学部会総会におきまして、久保木孝雄先生の後任として第30代部会長を務めることになりました千葉県立成田北高等学校長の藤崎俊浩です。微力ではありますが、千葉県高等学校数学教育の発展に向け、誠心誠意努めてまいりますので、御支援・御協力をお願いいたします。

令和2年度からの数年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、数学部会においても幾つかの行事の中止や総会が書面開催での実施を余儀なくされましたが、令和4年度は、ほぼ通常に近い形で行事を実施することができました。

令和5年度の総会・春季研究大会は6月13日(火)に県立匝瑳高等学校で開催し、会場校の先生方には第2時限を授業公開して頂きました。総会では全ての議案が承認されました。講演では、一橋大学教授の小林健太先生に「統計教育のアウトライン」という題で、約90分間にわたり御講演頂きました。統計の高校教育での扱いや背景に関する大変有意義なお話でした。

また、今年度の8月の見学研修会では、東京理科大学野田キャンパス薬学部を訪問し、学部・学科説明、模擬講義の他、施設見学をさせて頂きました。特に、模擬講義では、医薬品の有効性の評価に利用されている統計学について、具体的なお話を伺うことができました。高校の授業で扱う統計の内容が活かされていることを再確認でき、さらに、このような例を高校の授業で紹介することが、統計学の有用性を教え、興味・関心を高め、学びに向かう姿勢へとつながるのではないかと思います。見学研修会は、日頃とは異なった環境で大学教授や研究員の方から御教授頂くことで、幅広い観点から数学を捉える機会となっています。高校数学において、基礎的な計算力はもちろん、内容に関しての十分な理解と思考力を身に付けた生徒を育て、大学の要請にこたえていく必要があるとも感じたところです。

ここ数年、多くの大学で様々な学部が新設されています。情報系の他、心理系や医療系などの学部が目立っています。新しい学部は、社会の変化を受けて新たな時代に求められる人材の育成を目指すものです。特に、新しい情報系学部は、社会のデジタル化やIT人材の需要を背景に実社会での応用に力を入れる傾向が見られます。AI(人工知能)やビッグデータ、統計解析などをキーワードとして掲げるところが多く、数学教育とも関連がある分野です。高校数学は生徒たちにとって、基礎能力の構築、専門的な分野への入門、現実世界での応用、論理的思考の鍛錬、忍耐力の向上につながる重要な科目です。また、グループで協働して課題に取り組むことでコミュニケーション能力も培われます。高校数学の学習は、将来の学問や職業への道を開くために不可欠と言えるでしょう。そして、このような力をしっかり習得させられるよう考えていかなければなりません。

最後に、高等学校数学教育の一層の発展と本県数学の指導を担う先生方の益々の御活躍を心より祈念いたします。